

zoo もりおか

2014 第23号



盛岡市動物公園

飼育係の仕事

今回は動物公園の飼育係が普段どんな仕事をしているかを取り上げました。

飼育係は動物のお世話とお客様のお相手、他にも色々な仕事で毎日大忙し、休む間もなく働いています。そんな飼育係のあつという間の1日をイラストで紹介します。

それから動物公園で飼育係が今、一生懸命取り組んでいる仕事、アフリカゾウの「たろう」と「マオ」（表紙の写真）の繁殖への取り組みを紹介します。

動物公園には飼育係が20人いて100種類の動物を飼育しているのですが、皆個性的でちょっと変わっています。そんな飼育係と動物たちの間には様々なエピソードがあるのですが、「しいくうらばなし」では取って置きのエピソードを紹介します。

今回執筆した飼育係は
こんな人たちです。



Tさん

アフリカゾウ飼育歴19年のエキスパート。ゾウのたろうも一目置くゾウ繁殖作戦の中心的存在。動物公園のホームページを管理。



Mさん

ニホンリス繁殖のスペシャリストであり、昆虫のスペシャリスト。小さい頃からの虫好きで、「昆虫採集クラブ」や動物公園で人気の昆虫の催物を仕切る。



Aさん

盛岡で数年ぶりにケープハイラックスの繁殖を成功させた入社1年目の新人。アメリカで生物学を学んだので英語が達者。時々出る口癖は「もういっぱいいっぱいです〜」。



Sさん

ミーアキャット担当。トンボのスペシャリスト。風船で動物を作ったり、木で弓矢を作ったりと斬新なアイデアで人気の催物を次々に企画。



Yさん

バイソン担当。野遊びのスペシャリスト。小さい頃に良く遊んだ野遊びに着目し、動物公園の看板企画に仕立て上げる。

もくじ

- ・テーマ「飼育係の仕事」 2
- ・飼育係の1日 3
- ・アフリカゾウの繁殖を目指して 4・5
- ・しいくうらばなし 6・7
- ・園内のしぜん 8

飼育係の1日

しゅうがかり じかんじゅん
飼育係の1日を時間順に見てみよう！

①

8:30～10:30



8:30に仕事開始。動物の担当と1日の予定を確認します。



まずは動物の所に行って元気かどうかを確認。餌を残していないか、顔つきはどうか、良い糞をしているか……。動物はなかなか弱みを見せないもの。少しの変化も見逃せません。一番分かりやすいのは動物の歩く様子を良く観察することです。



掃除はスピード勝負！あっという間に隅々まできれいにします。



10:30～12:00

②

13:30～16:00



朝の動物のお世話が終わると、日中はお客様のお相手。週末は動物や園内の自然を題材にした、誰でも参加できる楽しい催物を1日中たくさん開催。動物公園で楽しい時間を過ごしてもらい、みんなにもっと動物や自然を好きになってほしいのです。



平日は遠足で来る子供たち等の団体に「動物教室」で楽しいレクチャーを実施。その数なんと年間300件。



他にも仕事はたくさん……。壊れたところを直したり、催物の準備をしたり、団体と打ち合わせをしたり、具合の悪い動物を獣医さんと一緒に治療したり、ゾウのおけいこをしたり……。ああ忙しい、忙しい。



③

13:00～13:30



午後一番に餌作り。動物ごとに違った内容、量で、食べやすい大きさに切ります。100種類の動物の餌を10人の飼育係がたったの30分ですべて作ります。そのあわただしさはまるで風が来たよう……

④

16:00～17:00

夕方お腹のすいた動物達は、部屋の中に餌が用意されているのを知っているので、戸をあけるだけですーっと部屋に入ってきます、だいたいは。時々どこかが気にさわって部屋に入らなくなると、みんな集まってなだめたり、怒ったり、追いかけたり……。遅くまでかかって、必ず部屋にしまします。

⑤

17:00～



最後に運動場を掃除して、日誌に動物の様子を記録したら仕事はおしまい……。と思いきや、ここから打ち合わせや催物の準備、下調べ等が始まって、遅くまでかかることも……。がんばろう、がんばろう。



アフリカゾウの繁殖を目指して

2010年12月、アフリカゾウのメスの「マオ」に産まれてはじめて発情が来ました。東京都の多摩動物公園から盛岡市動物公園のオス「たろう」のお嫁さんとしてやって来てから5年目の出来事でした。その時マオは8歳6か月。野生でメスのアフリカゾウは、10～20歳くらいで発情が来るのですが、動物園では栄養状態が良いため、早ければ6歳ぐらいで発情が来ます。これでやっとマオが大人の仲間入りをしたわけで、マオに子を産んでもらう繁殖作戦が、具体的にスタートしたわけです。

さて、なぜマオに発情が来たと分かったのでしょうか？発情に反応したたろうの行動でも分かったのですが、実は嫌がらないように時間をかけて血液サンプルを採れるようにして、その血液を岐阜大学に送って調べてもらっているからです。その血液の検査をして、プロゲステロンという性ホルモンの濃度の変動を調べると、ゾウの排卵日を知ることができるのです(図.1)。現在はゾウに痛い思いをさせないで、糞中の性ホルモンでも排卵日が分かるような研究も進んでいます。

現在、たろうとマオの繁殖には、日本中の動物園が注目しています。元々たろうには同い齢と一緒にアフリカから来た「はなこ」というお嫁さんがいました(写真.1)。2頭とも穏やかな性格で、相性抜群だったので、予想されたよりもはるかに若い齢ではなこが妊娠したのですが、お腹の子の足が胎内で引っ掛かる難産で、死んだ子をお腹から引っ張り出してはやれたのですが、はなこは疲れ果てて死んでしまったのです。繁殖に成功していれば、当時まだ成功例が少なかった国内でのアフリカゾウの繁殖の5例目になったはずでした。

そのことによってたろうには繁殖経験が備わりました。現在日本の動物園には、繁殖能力のあるアフリカゾウのオスは2頭しかいません(表.1)。そのうちの1頭がたろうで、もう1頭は愛媛県のとべ動物園の「アフ」です。アフはこれまで3頭の子をもうけており、大変優秀なオスですが、アフ1頭だけに頼るのでは色々問題があり、たろうにも繁殖で活躍してもらおうと、マオが送り込まれてきたわけです。マオのお母さん「アイ」は多摩動物公園で2度の出産、子育てに成功しており、現在は広島県の安佐動物園で、まだ繁殖経験のないオスとペアを組み、繁殖作戦中です(写真.2)。マオはお母さんのアイに性格がよく似ているので、きっといいお母さんになるはずです。

たろうへの期待はマオとの繁殖だけに留まらず、マオが妊娠したら今度は他のメスも連れてきて、さらに繁殖を進めようと模索されています。日本の動物園には、オスと一緒にいて発情が来ているのに何年も妊娠できないメスがいたり、そもそもオスのいない動物園で飼われているメスがいるからです。

なぜそんなにまでしてゾウを繁殖させなければいけないのでしょうか？実は繁殖可能なゾウが齢をとる前に子を増やしておかないと、近い将来日本の動物園からゾウがいなくなってしまうのではないかと、みんな真剣に心配しているからなのです。それじゃあアフリカからゾウをどんどん連れてくればいいのかと思うか



写真.1 とても人懐こかった「はなこ」



写真.2 生まれて1時間後の「マオ」(多摩動物公園)

かもしれません。アフリカにはゾウが増え過ぎて困っている地域があるくらいなのですが、全く理不尽な理由から、アフリカからゾウを出せない状態がずっと続いていて、改善の見通しが立っていないのです。

そこで主だった動物園のゾウのエキスパート達が会議を設け、日本中の動物園のゾウの様子を把握しながら、繁殖計画を立てています。たろうとマオは正にその最先端にいるのです。

ところで、動物園が協力し合って動物の繁殖に取り組み、種の保存、あるいは展示個体の確保に努めているのはアフリカゾウばかりではありません。アジアゾウでは東京都の上野動物園でなかなか繁殖しなかったメスの「アーシャ」を愛知県の豊橋総合動植物園に送り込んで、たちまち繁殖に成功しています。他にもキリン、シマウマ、サイ等、たくさんの動物に繁殖検討会議があり、研究をして計画を立て、動物たちを絶やさないように頑張っているのです。

同じような取り組みが、日本の野生動物の保全についてもなされています。絶滅が心配される日本の野生動物を動物園で飼育しながら、その繁殖生態を研究して繁殖技術を高め、また繁殖個体を生息地の個体群に戻して、維持していこうとするものです。盛岡市動物公園は、ニホンイヌワシ、ツシマヤマネコの会議のメンバーで、イヌワシでは繁殖に成功しています。その他にもニホンコウノトリ、ゴリラ、ホッキョクグマなど、多くの動物種の繁殖に日本の動物園は取り組んでいます。

さて、たろうとマオの繁殖の機運は、ますます高まってきています。何とか繁殖に成功しようと、あらゆる準備を整えて、飼育係全員が懸命に頑張っています。みなさんもどうぞたろうとマオを応援して下さいね。

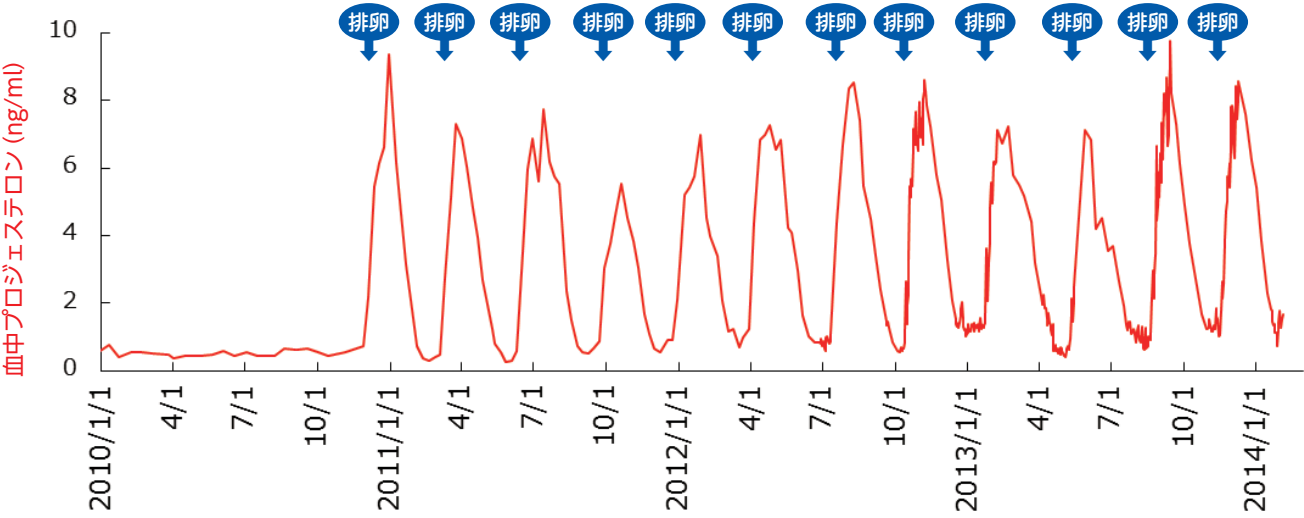


図.1 マオの血中プロジェステロンの変動 (データ提供: 岐阜大学)

	出産年月日 (出産時年齢)	施設名	妊娠個体名	交尾雄	出産状況
1	1984年1月31日 (推定16歳)	群馬サファリパーク	サキューブ	リチャード	死産 (♂)
2	1986年5月5日 (推定18歳)	群馬サファリパーク	サキューブ	リチャード	出産 (♂タンゴ: 2010年6月13日死亡, 24歳)
3	1987年8月6日 (推定19歳)	群馬サファリパーク	キャンディー	リチャード	出産 (♀ナツコ: 1996年5月30日死亡, 8歳)
4	1989年5月31日 (推定21歳)	群馬サファリパーク	サキューブ	リチャード	出産 (♂タンゴII: 1989年7月3日死亡, 約1か月齢)
5	1991年5月29日 (推定9歳)	姫路セントラルパーク	ワタ◎	ダン?	出産 (♂タカ: 広島市安佐動物公園へ) ◎
6	1998年4月25日 (推定16歳)	東京都多摩動物公園	アイ◎	タマオ	出産 (♂パオ: 富士サファリパークへ, 2007年7月11日死亡, 9歳)
7	2001年7月6日 (推定11歳)	盛岡市動物公園	はなこ	たろう◎	死産 (♂), はなこ翌日死亡
8	2002年6月13日 (推定20歳)	東京都多摩動物公園	アイ◎	タマオ	出産 (♀マオ: 盛岡市動物公園へ) ◎
9	2002年8月31日 (推定15歳)	愛媛県立とべ動物園	リカ◎	アフ◎	出産 (♂, 出産直後死亡)
10	2004年7月23日 (推定17歳)	愛媛県立とべ動物園	リカ◎	アフ◎	流産 (♀, 妊娠17か月)
11	2006年11月9日 (推定19歳)	愛媛県立とべ動物園	リカ◎	アフ◎	出産 (♀媛) ◎
12	2009年3月17日 (推定22歳)	愛媛県立とべ動物園	リカ◎	アフ◎	出産 (♂砥夢: 多摩動物公園へ) ◎
13	2013年6月1日 (推定26歳)	愛媛県立とべ動物園	リカ◎	アフ◎	出産 (♀砥愛) ◎

◎現在も飼育中の個体

表.1 日本でのアフリカゾウの妊娠例 (2013年9月現在) 楠田哲士、乙津和歌、川上茂久 (2013) より (一部改訂)

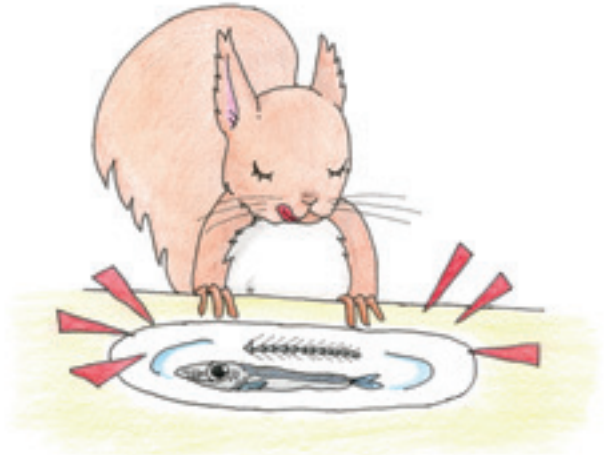
(参考文献) 楠田哲士、乙津和歌、川上茂久. 2013. ゾウの飼育下繁殖の現状と課題. 獣医畜産新報, 66 (11) : 812-817.

しいくうらばなし

「ニホンリスは和食通？」

動物公園でのニホンリスの主食はクルミとヒマワリの種です。特にクルミが大好きですが、繁殖期にはドッグフードやミルワームという幼虫、そしてニボシ等の動物質の物を増やして与えます。なかでもよく食べるのはニボシですが、最近意外なリスのお行儀良さに気付きました。それはニボシの背骨を、見事にきれいに残して食べるのです。どうしてなのかは分かりません。骨が喉に引っかかったら困るからというわけではなさそうです。ましてや和食通で、自然に和食のお行儀が身についた・・・そんなわけはありません。

それに気がついて以来、我が家で子供たちが夕食の焼き魚を食べていると、ついこう言ってしまいます。「きれいに食べなさい・・・リスのように」・・・ウソですけど。



「ケープハイラックスをめぐってのちょっとした勘違い」

ケープハイラックスの出産は他の動物とちょっと違ってしています。出産間近になってもお母さんのお腹がほとんど大きくなりません。動物公園ではこれまで何度も出産がありましたが、事前に出産が近いと分かったことはありませんでした。

ある日、2頭のメスのうちの1頭のお腹が少し大きくなっているように思えたので、先輩に報告すると、「本当か？怪しいなあ？でももしそれが本当に妊娠だったら、快挙だぞ！」と言われました。さらに念入りに観察すると、やっぱり違う、前よりお腹が大きい、別のメスやオスと比べても明らかに・・・と確信に近付きました。快挙目前。これまで出産が多かった9月中旬からは、余計なストレスや刺激を与えないよう注意し、ドキドキしながら期待していました。

そして忘れもしない10月9日！！朝一番でハイラックスを見に行くと、何と、2頭の赤ちゃんが元気に動き回っていたのです。ハイラックスの赤ちゃんは産まれてすぐに走り回れるくらい、成長した形で産まれるのです。「うわー、うわー！！」可愛さに圧倒され、快挙達成に興奮しました。そしてちょっとだけ思いましたね。『すごい、私の観察眼。新米なのに』

・・・でもちょっと待てよ。見ているうちに少し興奮が収まると、なぜかちょっと不思議な違和感が・・・。赤ちゃんたちが走り回っては戻り、走り回っては戻りとすり寄っていく相手が違うんです。寄っていく先は、お腹が大きいと思っていたのではない方のメスなのでした。そしてそのメスは、赤ちゃんを守ろうと私を警戒しています。見れば見るほど違和感は確信に変わり、勘違いを認めなければならなくなりました。『先輩に報告したら、大笑いされるだろうなあ・・・』予想以上に大笑いされました。がっかり。でもまあ、産まれたのは嬉しいから1勝1敗ってとかな？

さて、お腹が大きいと思ったメスは、その後いくらたっても赤ちゃんを産みませんでした。ちょっとぽっちゃり太ったんですね。



「ミーアキャットの日光浴」^{にっこうよく}

みなさん、ミーアキャットをご存知ですか？アフリカ南部で、地中のトンネルに暮らしますが、トンネルから出て後ろ足で立ち上がる姿が可愛く、人気があります。これは天気が良い日におなかを太陽に向けて日光浴し、体を暖めているのです。

新たに動物公園で飼育展示を開始し、すぐに人気者になりましたが、盛岡での初めての冬を迎えさせるに当たって、心配なことがありました。アフリカの動物なので、寒さに弱いと聞いていたのです。動物公園が冬休みに入る真冬には、獣舎の中で暖房をたいてあげればいいのですが、それまでは運動場でお客さんに見てもらわなければなりません。

そこで、運動場にあるあずまや風の台を風除けで囲い、中にヒーターをつけ、暖まれる場所を作ってあげました。すぐに暖かいのをおぼえ、寒い日や天気の良い日のお気に入りの場所になりました。ひと安心です。「暖まってるんだね」とお客さんにも分かり、これも好評でした。

さて本格的な冬になって、動物公園は冬休み。雪も積もり、気温もぐっと下がってしばしば日中も氷点下のままになると、寒さが心配でミーアキャットは獣舎に閉じ込めがちになりました。そうすると今度は別な心配が持ち上がります。“お日さまにあてないでいいんだろうか？”

太陽が輝く快晴のお昼過ぎ、しかし気温は-5℃。よっぽど悩みましたが、お日さまにあてなければと意を決して、ミーアキャットを運動場に出すことにしました。寒そうに縮こまれば、つかんででもすぐにしまつてやろう。

おそろおそろ吊り戸をあけると、ミーアキャットはヒーターには見向きもせず、ダッシュで走って行って日当たりのよい場所で気持ちよさそうに日光浴を始めました。私の心配をよそに、当たり前のように。やっぱりお日さまが恋しかったんだね、よかった、よかった。

さてよ・・・？ 話に聞いていたよりも寒さに強いじゃん。



「大きく成長した!? アメリカバイソン」^{せいちよう}

メス1頭だけになってしまっていたアメリカバイソンに、新たにオスを迎え入れることになった時のことです。バイソンと言えば、やはり最大で体重が1t近くにもなる大人のオスの迫力が魅力ですが、やって来るようになったのは生後6カ月の、まだまだ子供です。

さて、飼育係にとって動物の搬出入の作業、つまり送り出すのも迎え入れるのも、色々な経験が必要な、緊張を強いられる、“腕の見せ所”です。いかにスムーズに格好良く決められるかで力量が問われるので、あらゆる準備を整えて臨みます。失敗は許されないのです。

今回も余念はありません。ふと、「生後6カ月なのに、ちょっとおおげさじゃない？」とも思ったのですが、準備を進めるにしたがい調子が出てきてしまって、キリンを迎え入れた時と同じくらい整ってしまいました。

バイソンの入った大きな輸送箱がトラックに乗って到着すると、みんなの緊張も高まり、勢いでとんとんと、作業が流れるように進みます。トラックから輸送箱をおろし、獣舎の中に運び込み、寝室の入り口にしっかりと据え付けてから、扉と輸送箱のふたの開け方、閉め方を確認し、それぞれが持ち場について、緊張から高まる声で「行くぞ、せーの・・・」とふたを開けると・・・はらほろひれはれ。

“テケテケテケ・・・”と出てきたのは、あどけなさが全く抜けていないまるで子牛のようなバイソンでした。一瞬の沈黙の後、一同大爆笑。確かにこれは生後6カ月だね。準備をしているうちに、それぞれの頭の中でバイソンが勝手に“成長”してしまっていたのでした・・・。もちろん収容は無事に終わりました。

そのバイソンはもうすっかり盛岡の生活に慣れ、本当にみるみる大きくなっています。





カタクリ(ユリ科)

早春に4-5cmの大きさのピンクがかった薄紫色の可憐な花を下向きに咲かせます。動物公園では四季の森や鳥類ゾーンで見られます。多年草で成長が遅く、発芽してから花をつけるまで7~8年かかり、また寿命が長いと言われます。地表に姿を見せるのは1年のうち開花前後だけで、それ以外の10ヶ月程は球根として地下に潜んでいます。

本来片栗粉はこのカタクリの根茎から作っていましたが、消化の良いとても上質なデンプン粉で、漢方薬としても使われますが、現在一般に流通する片栗粉はジャガイモやサツマイモから作られています。

かつては北海道から九州まで広く分布していましたが、乱獲や盗掘、生息域の減少によって数が減り、各地でレッドリストに掲載される程、絶滅が心配されるようになりました。動物公園のカタクリも大切に见守りたいですね。

ZOO もりおか 第23号 2014年
発行日/平成26年3月24日

編集・発行/ (公財) 盛岡市動物公園公社

〒020-0803 岩手県盛岡市新庄字下八木田60-18
TEL.019-654-8266

印刷/川口印刷工業株式会社